

科目名	産業心理学Ⅰ（選択）	専門科目		開講期間	前期
		コース	C	単位数	2
		開講年次	3		
ふりがな 氏名	いづもと し てる 稲本 俊輝	テーマ	産業場面における人間行動を考える(1)		
授業概要 産業心理学は、産業・経営活動に関連するあらゆる人間行動を対象として分析、解明し、それを実践的に産業場面にフィードバックすることを目的とした応用心理学の一領域である。 したがって、単なる思惟的な話題にとどまらずに、心理学的知見を現実の経営体の内部活動や外部活動に有効に活用することをめざすものである。 産業心理学Ⅰでは、主に経営体の内部活動における人間行動を取り上げる。					
授業計画		前 期			
1. 産業心理学の系譜					
2. 産業と人間					
3. モラルの定義					
4. モラル・サーベイ					
5. モラルと生産性					
6. 動機づけ					
7. 欲求のメカニズム					
8. 労働と適応					
9. ストレスと適応、不適応					
10. 職務分析					
11. 職務満足度					
12. 人間関係					
13. 心理テスト					
14. 態度測定					
15. リーダーシップ					
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	講義の中で随時紹介する。				
視聴覚機器の利用	随時利用する。	単位認定の方法	試験（またはレポート）の結果を中心とするが、出席状況も参考にする。		
学生へのメッセージ	私語を含め、授業中の態度には厳しく対処する。 産業心理学Ⅱは必ず履修すること。	内容的に関連する科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。		

科目名	産業心理学Ⅱ（選択）	専門科目		開講期間	後期
		コース	C		
		開講年次	3	単位数	2
ふりがな 氏名	いほもと とし てる 稲本 俊輝	テーマ	産業場面における人間行動を考える(2)		
授業概要 産業心理学は、産業・経営活動に関連するあらゆる人間行動を対象として分析、解明し、それを実践的に産業場面にフィードバックすることを目的とした応用心理学の一領域である。 したがって、単なる思惟的な話題にとどまらずに、心理学的知見を現実の経営体の内部活動や外部活動に有効に活用することをめざすものである。 産業心理学Ⅱでは、主に経営体の外部活動における人間行動を取り上げる。					
授業計画		後 期			
		1. 類型論的リーダーシップ論			
		2. 力動論的リーダーシップ論			
		3. 特性論的リーダーシップ論			
		4. 人事管理			
		5. 創造性			
		6. 産業精神保健			
		7. 人事相談、カウンセリング			
		8. 消費者行動			
		9. 広告、宣伝			
		10. 購買心理			
		11. サービスの心理			
		12. サービスの留意点			
		13. アフターサービスの意義			
		14. 市場調査			
		15. モチベーション・リサーチ			
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	講義の中で随時紹介する。				
視聴覚機器の利用	随時利用する。	単位認定の方法	試験（またはレポート）の結果を中心とするが、出席状況も参考にする。		
学生へのメッセージ	私語を含め、授業中の態度には厳しく対処する。 産業心理学Ⅰは必ず履修すること。	内容的に関連する科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。		

科目名	社会保障論Ⅰ(選択)	専門科目		開講期間	前期
		コース	C	単位数	2
		開講年次	2		
ふりがな氏名	ふじもと つよし 藤本 剛	テーマ	年金問題を中心として		

授業概要

厚生労働省は国民年金の保険料について、支払い能力があるのに長期間滞納している加入者に対して、預金差し押さえ等の強制徴収を行う方針を具体的に決めた。高齢化が進展する中で年金制度に対する不信感もたらしている未納・滞納者の増大がいわゆる年金の空洞化を促進し、それがまた年金制度に対する不信を増大させていることに対する窮余の一策である。それと同時に、国は年金制度の将来見通しを明確にするために長期的な改革プランの策定を行っているが、年金制度改革は優れて政治的問題であり、政治の駆け引きによって制度の見直しが頻繁に行われていることも事実である。年金の将来はどうなるのか。そもそも年金制度とは何なのか。この科目では社会保障分野で国民の生活を経済的に保障する所得保障について取り上げ、年金制度や公的扶助(生活保護等)の歴史的背景、制度の内容、現状と問題点、今後の展望などについて共に考えていきたい。

授業計画	前 期		
第1回	社会保障とは何か(所得保障を中心に)		
第2回	社会保障の沿革①(所得保障を中心に)		
第3回	社会保障の沿革②(所得保障を中心に)		
第4回	社会保障の体系(所得保障を中心に)		
第5回	公的年金制度①(意義と沿革)		
第6回	公的年金制度②(制度と内容1)		
第7回	公的年金制度③(制度と内容2)		
第8回	公的年金制度④(現状と課題1)		
第9回	公的年金制度⑤(現状と課題2)		
第10回	企業年金①(制度と内容1)		
第11回	企業年金②(制度と内容2)		
第12回	企業年金③(現状と課題)		
第13回	公的扶助①(意義・原理・原則)		
第14回	公的扶助②(現状と課題)		
第15回	まとめ		
テキスト	川村匡由『社会保障論第三版』ミネルヴァ書房		
参考文献	『厚生労働白書』各年版		
視聴覚機器の利用	ビデオ教材としてNHKスペシャル、クローズアップ現代などを活用する。	単位認定の方法	(出席率+試験成績)÷2にレポート、ビデオメモ、メッセージカードを加味して総合評価する。
学生へのメッセージ	テーマについて自ら考える積極的な履修姿勢を期待します。	内容的に関連する科目	社会保障論Ⅱ、社会政策論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉論Ⅰ・Ⅱ

科目名	社会保障論Ⅱ(選択)	専門科目		開講期間	後期
		コース	C		
		開講年次	2	単位数	2
ふりがな 氏名	ふじもと 藤本 剛	テーマ	医療保障を中心として		
授業概要 <p>昨年から健康保険被保険者本人の自己負担額が2割から3割にアップし、高額医療費の保険からバックされる分についても所得に応じて大幅にカットされることとなった。医療保障制度改革は目下進行中であるが、年々増大する医療費を抑制するための抜本的制度改革が叫ばれて久しいものの未だ実現に至っていない。その一方で医療ミスや医療費不正受給などの問題が頻発している状況である。われわれの健康を支えるシステムに何が起きているのか。この科目は高齢化の進展に伴ってますます重要性を増している医療保障制度を取り上げその現状と課題、改革の行方を共に考えようとするものである。関連して我が国の医療に相対的に大きな比重を占めている薬の問題、高齢者介護の社会化をもたらしたとされる介護保険についてもその現状と課題を明らかにし、今後の展望を考えていきたい。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回 社会保障とは何か(医療保障を中心に)			
		第2回 社会保障の沿革(医療保障を中心に)			
		第3回 社会保障の体系(医療保障を中心に)			
		第4回 公的医療保険①(制度の概要)			
		第5回 公的医療保険②(健康保険1)			
		第6回 公的医療保険③(健康保険2)			
		第7回 公的医療保険④(国民健康保険)			
		第8回 公的医療保険⑤(老人保健)			
		第9回 公的医療保険⑥(薬事1)			
		第10回 公的医療保険⑦(薬事2)			
		第11回 公的医療保険⑧(課題と制度改革)			
		第12回 公的介護保険①(意義と背景)			
		第13回 公的介護保険②(制度の概要)			
		第14号 公的介護保険③(現状と課題)			
		第15回 まとめ			
テキスト	川村匡由『社会保障論第三版』ミネルヴァ書房				
参考文献	『厚生労働白書』各年版				
視聴覚機器の利用	ビデオ教材としてNHKスペシャル、クローズアップ現代などを活用する。	単位認定の方法	(出席率+試験成績)÷2にレポート、ビデオメモ、メッセージカードを加味して総合評価する。		
学生へのメッセージ	テーマについて自ら考える積極的な履修姿勢を期待します。	内容的に関連する科目	社会保障論Ⅱ、社会政策論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉論Ⅰ・Ⅱ		

科目名	生涯教育論 I (選択)	教職に関する科目		開講期間	前期
		開講年次	2	単位数	2
ふりがな 氏名	にしやま 西山 亨	テ ー マ	生涯学習の理念と生涯発達論		
授業概要 教育学とは家庭・地域・学校・職場における人間形成を多面的に科学する所作である。しかし、現在「教育」という時、すなわち「学校」がイメージの大半を占める。しかし、その「学校化」された社会においても、教育学は生涯学習を提唱し、一生涯学び続ける人間像の構築を支援していかなければならない。その意味から今日、「規制緩和」「自由化」の渦中で、「学校のスリム化」が提唱され、「自己教育力」をキーワードとする「生涯学習社会」の到来が告げられている。その生涯学習社会において、教育制度改革はもちろんのこと、地域の拠点である生涯学習センターを中心として、生涯学習を視野に収めた新しい教育観をも構築していかなければならない。そのために本授業では、まず生涯発達と生涯教育の関連についてふれ、次に社会変動と教育について考察する、そして具体事例として地域社会における新しい教育システムを紹介し、教育社会学的な視野（ものの見方）を提示したうえで、最後に教育・経済・社会の連関に対する考察を深めていくという手続きをとる。上記の手続きを経ることにより、経済現象として教育を捉える複眼的思考の獲得（例えば、個人的投資として教育をとらえる、あるいは社会的投資として教育をとらえる、また教育を対象として「市場」メカニズムを考えるなど）がなされることを目標とする。加えて、「社会化」をキーワードにすえ、「社会の中に自己をみる」ことは「自己の中に社会をみる」ことであることを理解していく。					
授業計画					
第1回 生涯学習の理念と生涯発達論の系譜					
第2回 生涯発達を発達課題、ライフコース					
第3回 成人の学習要求と生涯学習の方法					
第4回 生涯学習とマルチメディアの活用					
第5回 生涯学習の施策と行財政問題					
第6回 福祉社会と教育					
第7回 国際化社会と教育					
第8回 共生社会と教育					
第9回 余暇社会と教育					
第10回 移動社会と教育					
第11回 情報社会と教育					
第12回 管理社会と教育					
第13回 競争社会と教育					
第14回 高学歴社会と教育					
第15回 学習社会と教育					
テキスト					
参考文献 新井郁男・岡崎友典共著『現代社会と教育』放送大学教育振興会 1995年 金子元久・小林雅之共著『教育・経済・社会』放送大学教育振興会 1996年 麻生誠・堀薫夫共著『生涯発達と生涯学習』放送大学教育振興会 1997年					
授業の進め方等 授業時間の3分の2は講義形式を中心に行い、その講義に基づいて学習課題を与え、授業時間の3分の1を学習者との対話や学習者同士の討議、及びグループ演習として行う。					
授業に関連するキーワード 学習課題等 マルカム・ノールズのアンドラゴジー論とジェロゴジー・ハヴィガーストの発達課題論、ピアジェ・エリクソンの発達段階論・地域生涯教育のシステム化・最適化・大学教育の規制緩和とアクレディテーション（適格認定）・マンパワー理論、社会的収益率・シグナリング理論、葛藤理論と職業競争モデル・デュルケム・マートンにみる社会理論・社会構造					
視聴覚機器の利用		放送大学ビデオ教材「教育・経済・社会」「現代社会と教育」などを数回視聴する。	単位認定の方法	出席と授業態度を重視する。各回の教場レポートと別途課題を与える2回のレポートの内容を評価して単位を認定する。	
学生へのメッセージ		積極的な授業参加を求めます。グループ演習では、課題に対する正答を探すのではなく、他者との討論の中で、自らの教育観を見つめ直してみてください。	内容的に関連する科目		

中一種社会必修・高一種地歴必修・高一種公民必修・高一種商業必修

科目名	生涯教育論Ⅱ（選択）	教職に関する科目		開講期間	後期
		開講年次	2	単位数	2
ふりがな 氏名	にしやま 西山亨	テ-マ	生涯学習の推進と教育経営の再編成		
授業概要 <p>「生涯教育論Ⅱ」では、「生涯教育論Ⅰ」の講義をふまえたうえで、生涯学習の推進にかかせない教育経営のあり方の再編成について、その動向と理念を学習していく。</p> <p>教育経営とは、教育の目的を効果的に達成するために、教育に関する組織・運営の主体と教育活動機能を相対的にとらえ、それらの計画と実施及び改善の全体を総合的に把握していくものである。本授業では、公教育の政策形成の教育経営、その法構造、教育経営における学校の自律性を理論的に究明し、情報化社会や教育環境変化における教育経営の諸問題、あるいは教育課程の開発、生涯学習の推進と教育経営の再編成の諸課題を明らかにしていく。また、現代教育経営における国民参加や教師の経営参加あるいは子どもに対する指導の諸問題を取りあげて、現代教育経営の争点についての分析も行っていく。</p> <p>講義名は「生涯教育論Ⅱ」であるが、教育経営領域の各学問体系、すなわち教育行政学、教育財政学、教育法制学、教育制度学、学校経営学、比較国際教育学の全体像を把握したうえで、それを貫く「教育の論理」を一般行政の論理と対比させながら、生涯教育の基盤整備に資する教育経営の推進理念を考察していきたい。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回	現代教育経営の構造と理論		
		第2回	公教育の政策形成と公教育経営		
		第3回	教育経営の法構造		
		第4回	移動社会と地域文化の継承		
		第5回	地域社会の再生と生涯学習		
		第6回	情報化・国際化と生涯学習		
		第7回	教育経済発展（教育と社会発展の歴史）		
		第8回	教育と経済発展（近代日本の教育と社会）		
		第9回	教育経済発展（個人的投資としての教育）		
		第10回	教育と経済発展（社会的投資としての教育）		
		第11回	教育と経済発展（教育と「市場」メカニズム）		
		第12回	しごとと教育（学歴と就職、女性と職業）		
		第13回	階層・学歴・職業		
		第14回	生涯学習社会の可能性と課題		
		第15回	教育経営組織再編の課題		
テキスト					
参考文献	下村哲夫著『現代教育の論点』学陽書房 1997年 永岡順編著『現代教育経営学—公教育システム経営の探求』教育開発研究所 1995年 菱村幸彦編著『教育の眼・法律の眼 話題で読む教育法規』教育開発研究所 1993年				
授業の進め方等	授業時間の3分の2は講義形式を中心に行い、その講義に基づいて学習課題を与え、授業時間の3分の1を学習者との対話や学習者同士の討議、及びグループ演習として行う。				
授業に関連するキーワード 学習課題等	現代公教育システムにおける教育課題・社会変動と教育経営の再編成・生涯学習審議会答申の文脈と意義・教育の地方自治と地域教育再生計画・学力問題における「新たな階層化社会」の本質・生涯学習社会への移行と教育構造の再編				
視聴覚機器の利用	適宜視聴する。	単位認定の方法	出席と授業態度を重視する。各回の教場レポートと別途課題を与える2回のレポートの内容を評価して単位を認定する。		
学生へのメッセージ	授業内に与える課題はわかりやすい具体的教育事象を題材とするので、その教育事象が教育経営学的にどのように考察されるかを常に意識化してください。		内容的に関連する科目		

科目名	コミュニケーション論Ⅰ（選択）	専門科目		開講期間	前期
		コース	C		
		開講年次	3	単位数	2
ふりがな 氏名	しょうじ 庄司 信	テーマ	コミュニケーションを通じての自己形成		
授業概要 <p>コミュニケーションとは単なる情報の伝達ではなく、自分を表現することであり、他者との関係や社会関係を再生産したり新たに創り出したりすることであり、文化（価値や規範、感覚や感性、生活様式 etc.）を再生産したり作り変えたりすることである。そして、ほとんど無自覚に行われている日々のコミュニケーションを通じて、私たちの自己（自我、アイデンティティ、パーソナリティ等々、様々な呼び方がある）は形成され、維持され、変容していく。ということは、例えば青少年のショッキングな犯罪が起きたときに、そのような行為をする特異な「自己」はどのようなコミュニケーション過程（他者関係や文化による規定を含む）を経て形成されたのか、という見方が可能だということである。あるいは、目を輝かせてワイワイおしゃべりしていたピカピカの小学校1年生が、学年が上がるにつれて目が死んだようになってあまり発言もしなくなり、大学生ともなれば「死語」状態などというのもコミュニケーション過程の問題として理解することが可能である。この授業では、そうした問題関心のもとに「コミュニケーションを通じての自己形成」という面に焦点を当てて書いた拙稿を読みながら、できるだけ多面的にコミュニケーションを考察していく。最終的に、皆さん一人一人が自分自身の自己を振り返り、自由闊達なコミュニケーションを阻害しているのは何かということを反省するきっかけになってくれればと思っている。一人一人が生き生きとし、他者関係や社会関係、そして文化が少しでもよい方向に変わっていくためには、どれだけ自由闊達なコミュニケーションができるかが最大の鍵を握っていると思うからである。</p>					
授業計画		前期			
第1回	はじめにー社会・文化・自己を生成するコミュニケーション、行為としてのコミュニケーション				
第2回	対人コミュニケーションの成立要件				
第3回	コミュニケーションと他者関係				
第4回	コミュニケーションと自己				
第5回	相互承認欲求と自律				
第6回	リスクとしてのコミュニケーション				
第7回	差別化としてのコミュニケーション				
第8回	個人としての自己、集団の一員としての自己				
第9回	コミュニケーションの制度化・儀礼化				
第10回	コミュニケーションの演技化				
第11回	日本的コミュニケーション				
第12回	西欧的コミュニケーション				
第13回	コミュニケーションと権力				
第14回	消費社会とコミュニケーション				
第15回	情報化社会とコミュニケーション				
テキスト	コピーを配布します。				
参考文献					
視聴覚機器の利用		単位認定の方法	出席とレポートまたは試験の総合評価		
学生へのメッセージ		内容的に関連する科目			

科目名	コミュニケーション論Ⅱ（選択）	専門科目		開講期間	後期
		コース	C		
		開講年次	3	単位数	2
氏名	庄司 信	テーマ	論理的思考の訓練		
授業概要 <p>昨今、小学生から大学生まであらゆるレベルで「学力低下」が問題になっている。大学生に関しては、「分数・少数のできない大学生」などと、まずは理系の学力低下がクローズアップされ、論理的思考力が育たないとか、「技術立国」が危ういなどと騒がれている。私も、自分なりの意見や主張を筋道立ててきちんと表現する能力（専門知識以前の、市民・社会人にとっての基礎的能力）をうまく育てられないことは、日本の教育の最大の欠点の一つだと思ってるが、論理的思考力を育てるには数学の証明問題が有効という意見には疑問がある。専ら「演繹」に限定される数学的思考と、自然言語で論理的に考え、表現する能力とはだいぶ違いがあるからだ。したがって自然言語による論理的思考力こそ、まずは訓練すべきだと思うが、そのためには話し言葉よりは書き言葉で訓練する方が適していることは論を待たない。つまり書き言葉で論理的思考力を培うことで、口頭でのコミュニケーションにおいても徐々に整然と話せるようになっていくことが期待される。そこで、この講義では野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）によりながら、論理的思考の訓練を行う。</p> <p>ここ何年間かこの授業をやっていて、皆さんの不出来ぶりは予想以上に深刻であるが、何であれ訓練さえすればいくらでも能力は伸びる。ということは、論理的思考力を鍛えようという意欲があるかないかが、実は最大の問題なのかもしれない。授業は、皆さんが前もって解説を読み、自分で練習問題をやってみることを前提に進めるので、それなりに覚悟して選択するように。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回 順接の論理			
		第2回 同上			
		第3回 逆説の論理			
		第4回 同上			
		第5回 議論の構造			
		第6回 同上			
		第7回 論証の構造			
		第8回 同上			
		第9回 論証の評価			
		第10回 同上			
		第11回 推測			
		第12回 同上			
		第13回 価値評価			
		第14回 同上			
		第15回			
テキスト	コピーを配布します。				
参考文献					
視聴覚機器の利用		単位認定の方法	出席と試験の総合評価		
学生へのメッセージ	上記概要の最後参照		内容的に関連する科目		

科目名	親族相続法		科目分類	専門 選択		
			開講年次	3 (法職2年)		
氏名 (ふりがな)	ふる 古	た 田	しげ 重	あき 明	開講期間	通 年
					単位数	4
授業概要 <p>親族相続法は我々の家庭生活に最も深く関わりあっている日常かつ常識的な法律です。皆さんはいずれ結婚し夫婦となり親子関係が生じ、長じては扶養や相続等の問題が発生します。例外的に離婚もあり、また養子とか認知等々個人によりいろいろなタイプの生活があります。親族相続法は論理的に割り切れない感情的側面を重視する分野でもあります。したがって感情がもつれ争いになったときの「転ばぬ先の杖」になり得べく、「知らなきヤンソン」とならないように、予防法学として学習することも大事です。この科目は選択科目ではありますが、以上のことから多数の履修が望まれます。</p>						
授業方針と留意点		1 講義中心であるが、判例、各種書式を示し、実学重視。 2 小六法を携帯し、条文に慣れ親しむように。				
授業計画 前期			後期			
第1回 親族相続法の史的素描 【キーワード】 家制度から法の下の平等へ・親族			第16回 相続の意義 【キーワード】 相続法の史的素描			
第2回 氏と戸籍 【キーワード】 氏の取得・変更・夫婦別姓			第17回 相続権とその侵害 【キーワード】 相続回復請求権			
第3回 家庭内のもめごと処理 【キーワード】 調停前置主義			第18回 相続人と相続順位 【キーワード】			
第4回 婚姻 【キーワード】 結納・婚姻の要件、婚姻の障害事由			第19回 相続欠格と相続人廃除 【キーワード】			
第5回 婚姻の無効・取消 【キーワード】			第20回 相続財産の範囲 【キーワード】 生命保険金、香典は遺産か			
第6回 婚姻の効力 【キーワード】			第21回 決定相続分、具体例の計算 【キーワード】			
第7回 婚姻の解消 【キーワード】			第22回 特別受益者の相続分 【キーワード】			
第8回 内縁の保護 【キーワード】 内縁の不当破棄、準婚関係			第23回 寄与分権利者への配慮と相続分 【キーワード】			
第9回 婚姻法改正案 【キーワード】			第24回 遺産分割 【キーワード】			
第10回 親子 【キーワード】 実子、認知			第25回 相続の承認・放棄 【キーワード】 単純承認・限定承認			
第11回 養子 【キーワード】 普通養子、特別養子			第26回 相続人不存在・特別縁故者がある場合 【キーワード】 人に親切			
第12回 親権 【キーワード】 監護教育、居所指定他			第27回 遺言の方式、効力、書き方 【キーワード】 自筆証書、公正証書他			
第13回 後見と保佐・補助 【キーワード】			第28回 遺留分 【キーワード】 遺留分権利者、遺留分割合			
第14回 扶養 【キーワード】 老親扶養			第29回 遺留分を侵害された場合 【キーワード】 遺留分減殺請求権			
第15回 前期試験 【キーワード】			第30回 後期試験 【キーワード】			
テキスト	講義の初め示します。					
参考文献	講義の際紹介します。					
評価方法	テスト・出席					

科目名	労働法	科目分類	専門 選択
		開講年次	3
(ふりがな) 氏名	きむら きよし 木村 澄	開講期間	通年
		単位数	4
授業概要 <p>国民の大多数を占める労働者にとって労働法とのかかわりは日々の出来事である。労働者が働くということは、たんに労使の関係にとどまらず、労働者の家族生活全体に直接のつながりを持つことから、よりよい労働条件は、生活水準の向上、ひいては国民全体の経済的・文化的水準の向上をもたらす。労働法は、資本主義社会の労働者の生活の向上を目的とする制度的手段を提供する法である。今日、経済社会の変動に伴い産業構造や雇用形態が変容している中で、新たな労働法の制定や制度的改革が進んでいる状況をふまえ、本講義では、労働法がなぜ生まれ、どのような性格と仕組みの中でいかに機能しているかを個別的問題を取り上げつつ講義することとする。</p>			
授業方針と留意点	個別的労働関係と集団的労使関係に関する多数の判例のプリントを配布する。 必ずノートをとること。		
授業計画 前期		後期	
第1回 労働法の形成過程 【キーワード】	第16回 年次有給休暇(1) 【キーワード】		
第2回 労働基本権 【キーワード】	第17回 年次有給休暇(2) 【キーワード】		
第3回 個別的労働関係の構造 【キーワード】	第18回 企業秩序と懲戒処分(1) 【キーワード】		
第4回 就業規則(1) 【キーワード】	第19回 企業秩序と懲戒処分(2) 【キーワード】		
第5回 就業規則(2) 【キーワード】	第20回 労働関係の終了 【キーワード】		
第6回 労働契約の成立(1) 【キーワード】	第21回 団体的労使関係の構造 【キーワード】		
第7回 労働契約の成立(2) 【キーワード】	第22回 労働組合 【キーワード】		
第8回 平等取扱いの原則(1) 【キーワード】	第23回 団体交渉と労働協約 【キーワード】		
第9回 平等取扱いの原則(2) 【キーワード】	第24回 団体行動(1) 【キーワード】		
第10回 賃金(1) 【キーワード】	第25回 団体行動(2) 【キーワード】		
第11回 賃金(2) 【キーワード】	第26回 不当労働行為制度(1) 【キーワード】		
第12回 労働時間(1) 【キーワード】	第27回 不当労働行為制度(2) 【キーワード】		
第13回 労働時間(2) 【キーワード】	第28回 労働争議の調整 【キーワード】		
第14回 労働時間(3) 【キーワード】	第29回 まとめ 【キーワード】		
第15回 前期試験 【キーワード】	第30回 後期試験 【キーワード】		
テキスト	講義の際に指示する。判例プリントを配布する。		
参考文献	菅野和夫著 『労働法』 弘文堂 その他		
評価方法	試験および出席状況		

科目名	社会政策	科目分類	専門 選択	
		開講年次	3	
(ふりがな) 氏名	きむら 木村	きよし 澄	開講期間	通年
			単位数	4
授業概要 賃金を得て働く者にとって、賃金や労働時間はもとより、疾病、負傷、障害、妊娠、出産、失業や死亡、さらには高齢社会における年金や生きがいといった事項は何よりもまして重大な問題である。社会政策は、これらの問題に対して国家の行う対応策であって、その対象とするところは、労働者の保護、労働組合と労使関係、雇用と失業、社会保険といった領域におよぶ。もとより、これらに対する政策は、相互に関連し、社会・経済の発展に対応して生成してきたものであることから、本講義では、主要国における労働運動や社会運動の進展をみながら、社会政策の制度と立法を概観し、さらにその具体的な適用をみていくこととする。				
授業方針と留意点	多数のプリントを配布する。必ずノートをとること。			
授業計画 前期		後期		
第1回 社会政策の対象 【キーワード】	第16回 医療保険制度(3) 【キーワード】			
第2回 社会政策の思想と理論 【キーワード】	第17回 年金保険制度(1) 【キーワード】			
第3回 社会政策の成立(1) 【キーワード】	第18回 年金保険制度(2) 【キーワード】			
第4回 社会政策の成立(2) 【キーワード】	第19回 年金保険制度(3) 【キーワード】			
第5回 社会保障の概念 【キーワード】	第20回 労働者災害補償保険制度(1) 【キーワード】			
第6回 社会保障の機能 【キーワード】	第21回 労働者災害補償保険制度(2) 【キーワード】			
第7回 イギリスの社会保障の発展(1) 【キーワード】	第22回 労働者災害補償保険制度(3) 【キーワード】			
第8回 イギリスの社会保障の発展(2) 【キーワード】	第23回 雇用保険制度(1) 【キーワード】			
第9回 イギリスの社会保障の発展(3) 【キーワード】	第24回 雇用保険制度(2) 【キーワード】			
第10回 日本の社会保障の発展(1) 【キーワード】	第25回 雇用保険制度(3) 【キーワード】			
第11回 日本の社会保障の発展(2) 【キーワード】	第26回 介護保険制度(1) 【キーワード】			
第12回 日本の社会保障の発展(3) 【キーワード】	第27回 介護保険制度(2) 【キーワード】			
第13回 医療保険制度(1) 【キーワード】	第28回 介護保険制度(3) 【キーワード】			
第14回 医療保険制度(2) 【キーワード】	第29回 まとめ 【キーワード】			
第15回 前期試験 【キーワード】	第30回 後期試験 【キーワード】			
テキスト	講義の際に資料を配布する。			
参考文献	講義の際に指示する。			
評価方法	試験および出席状況			

科 目 名	保 險 法	科目分類	専門 選択
		開講年次	4
(ふりがな) 氏 名	みち はた ただ よし 道 端 忠 孝	開講期間	前 期
		単 位 数	2
授業概要 <p>保険法は、各種の保険制度を規律するものであり、現代社会において欠くことのできない重要なものである。</p> <p>保険法とは、社会生活において存する危険や不安に備える保険制度を規律するものであり、火災保険・自動車保険・傷害保険・生命保険等々、いずれも、社会生活上不可欠のものである。</p> <p>この現代生活において重要な役割を果たしている保険制度の機能・しくみ等を法的に明らかにしていきたい。</p>			
授業方針 と留意点		(1) 本講では、テキストを中心に保険の機能やしくみ等を明らかにしていきたい。 (2) 就職活動等で欠席する際には必ず欠席届を提出すること。	
授業計画 前 期			
第1回 保険の意義と機能			
第2回 保険制度のしくみ			
第3回 保険契約の特色			
第4回 損害保険の特色			
第5回 損害保険の成立			
第6回 損害保険の変動			
第7回 保険代位			
第8回 保険担保			
第9回 責任保険			
第10回 自動車保険			
第11回 生命保険の特色			
第12回 生命保険の成立・変動			
第13回 生命保険の担保・処分			
第14回 傷害保険・疾病保険			
第15回 試験			
テキスト	講義時に指示する。		
参考文献	講義時に指示する。		
評価方法	前期試験・後期試験(90%)・出席率、授業態度(10%)		

科目名	行政法総論			科目分類	専門 選択
				開講年次	2
(ふりがな) 氏名	わた 渡	なべ 部	たけし 毅	開講期間	通 年
				単位数	4
授業概要 われわれの日常生活は、様々な面で行政と係わり合いをもっていますが、行政の活動は法に基づいて行われるのが原則です（法治行政の原理）。行政法総論では、行政が国民に働きかけを行う際の根拠となるルール（一般に、行政作用法と総称しています）の通則を学習していきます。社会の複雑化によって現代行政が果たすべき役割も多様化していることから、今日的な問題にも視野を広げてアプローチしていこうと思います。					
授業方針 と留意点		(1) テキストおよび六法は必携 (2) 判例集で関連判例を確認することが望ましい			
授業計画 前期			後期		
第1回 行政とは何か 【キーワード】			第16回 行政計画(1) 【キーワード】		
第2回 行政法とは何か 【キーワード】			第17回 行政計画(2) 【キーワード】		
第3回 公法と私法 【キーワード】			第18回 行政行為の意義 【キーワード】		
第4回 行政法の法源(1) 【キーワード】			第19回 行政行為の特質 【キーワード】		
第5回 行政法の法源(2) 【キーワード】			第20回 行政裁量(1) 【キーワード】		
第6回 訓令・通達 【キーワード】			第21回 行政裁量(2) 【キーワード】		
第7回 法治行政の原理(1) 【キーワード】			第22回 行政手続(1) 【キーワード】		
第8回 法治行政の原理(2) 【キーワード】			第23回 行政手続(2) 【キーワード】		
第9回 法治行政の原理(3) 【キーワード】			第24回 行政行為の種類(1) 【キーワード】		
第10回 法治行政の原理(4) 【キーワード】			第25回 行政行為の種類(2) 【キーワード】		
第11回 法治行政の原理(5) 【キーワード】			第26回 行政行為の附款 【キーワード】		
第12回 行政立法(1) 【キーワード】			第27回 行政行為の瑕疵(1) 【キーワード】		
第13回 行政立法(2) 【キーワード】			第28回 行政行為の瑕疵(2) 【キーワード】		
第14回 行政立法(3) 【キーワード】			第29回 行政行為の取消し・撤回 【キーワード】		
第15回 前期試験 【キーワード】			第30回 後期試験 【キーワード】		
テキスト	原田尚彦『行政法要論』（学陽書房・2004年）				
参考文献	行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（有斐閣）				
評価方法	主として試験の成績による				

科目名	行政法各論		科目分類	専門 選択
			開講年次	3
(ふりがな) 氏名	わた なべ 渡 部	たけし 毅	開講期間	通 年
			単位数	4
授業概要 2年次に学習した内容に継続して、行政作用法および行政救済法の体系を学習します。具体的には、行政指導、行政契約、行政上の強制措置、損失補償、国家賠償、行政不服申立て、行政事件訴訟などを扱います。				
授業方針と留意点		(1) テキストおよび六法は必携 (2) 判例集で関連判例を確認することが望ましい		
授業計画 前 期			後 期	
第1回 行政指導(1) 〔キーワード〕			第16回 国家賠償法の概要 〔キーワード〕	
第2回 行政指導(2) 〔キーワード〕			第17回 公権力責任(1) 〔キーワード〕	
第3回 行政契約(1) 〔キーワード〕			第18回 公権力責任(2) 〔キーワード〕	
第4回 行政契約(2) 〔キーワード〕			第19回 公権力責任(3) 〔キーワード〕	
第5回 行政強制 〔キーワード〕			第20回 営造物責任(1) 〔キーワード〕	
第6回 行政代執行 〔キーワード〕			第21回 営造物責任(2) 〔キーワード〕	
第7回 行政罰 〔キーワード〕			第22回 行政不服申立て(1) 〔キーワード〕	
第8回 即時強制 〔キーワード〕			第23回 行政不服申立て(2) 〔キーワード〕	
第9回 行政調査 〔キーワード〕			第24回 行政不服申立て(3) 〔キーワード〕	
第10回 行政救済法の体系 〔キーワード〕			第25回 行政事件訴訟(1) 〔キーワード〕	
第11回 損失補償(1) 〔キーワード〕			第26回 行政事件訴訟(2) 〔キーワード〕	
第12回 損失補償(2) 〔キーワード〕			第27回 行政事件訴訟(3) 〔キーワード〕	
第13回 損失補償(3) 〔キーワード〕			第28回 行政事件訴訟(4) 〔キーワード〕	
第14回 損失補償(4) 〔キーワード〕			第29回 行政事件訴訟(5) 〔キーワード〕	
第15回 前期試験 〔キーワード〕			第30回 後期試験 〔キーワード〕	
テキスト	原田尚彦『行政法要論』(学陽書房・2004年)			
参考文献	行政判例百選Ⅰ・Ⅱ(有斐閣)			
評価方法	主として試験の成績による			

科目名	経営心理学		科目分類	専門 選択
(ふりがな)	い	とう	ご	ろう
氏名	伊	藤	護	朗
			開講年次	2
			開講期間	後 期
			単 位 数	2
授業概要 経営心理学は、経営体という組織活動を担っていくものとしての人間の行動や心理を探求するものである。 本講では、職場のモラルやリーダーシップなど、組織運営における「人間関係の真理」を中心に講述する。				
授業方針 と留意点	(1) 「理論」と「実例」を有機的に結合させ、実践に役立つ講義としたい。 (2) 記憶しやすいように板書を多くする。			
授業計画	後 期 第1回 ガイダンス：経営心理学の意義 【キーワード】 実験心理学／適性研究／作業能率 第2回 経営心理学の四つの領域 【キーワード】 人事心理／作業心理／組織心理／市場心理 第3回 人間関係管理論（Ⅰ） 【キーワード】 人間（じんかん）距離／ジレンマ／緊張解消 第4回 人間関係管理論（Ⅱ） 【キーワード】 青い鳥症候群／燃えつき症候群／シンデレラ・コンプレックス 第5回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅰ） 【キーワード】 言行一致／誠実／意識改革 第6回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅱ） 【キーワード】 過分報酬／類似性の要因／慰労 第7回 職場におけるリーダーシップ 【キーワード】 職場組織／管理職／一般職 第8回 人心掌握のベース作り 【キーワード】 一括報酬／分割報酬／公平分配 第9回 リーダーシップの科学 【キーワード】 PM理論／P機能／M機能 第10回 組織集団の状況とリーダーシップ 【キーワード】 集団の性質／自律と意欲／リーダーの特性 第11回 動機づけ理論（欲求の喚起） 【キーワード】 生理的欲求／安全性の欲求／社会的欲求 第12回 リーダーになるための条件 【キーワード】 先見性／幸運／外向型（性格） 第13回 説得力の高揚（Ⅰ）－ハロー（後光）効果 【キーワード】 肩書／学歴／交友関係 第14回 説得力の高揚（Ⅱ）－説得者の魅力効用 【キーワード】 人脈／振る舞い／理念と方針 第15回 試験 【キーワード】			
テキスト	開講時に指示する。			
参考文献	松浦健児・岡村一成編 『経営組織心理学』（朝倉書店）			
評価方法	出席状況と試験の成績			

Aコース特別講義

専門科目

開講期間 前期

コース A

単位数 2

開講年次 3

テーマ 現代経済事情－就職活動の経済常識

授業概要

3年次の年度末には、諸君は就職活動を始めることになる。

その際、面接などによって諸君の常識が問われることは周知のことであろう。とりわけ、面接者は企業の経済活動の最前線にいる人だけに、経済常識をメインにして発問してくるのである。

秋、首都圏の大学を訪れると、『週刊東洋経済』や『週刊エコノミスト』、あるいは経済関係のベストセラー書などを抱えている学生を多く見かける。経済・経営系の学部の学生はもちろんだが、文学部や社会学部の学生たちも、秋には、就職対策として、経済の勉強を始める。

本講義は、諸君の就職活動を支援するために、日本あるいは世界の経済で何がいま問題になっていて、またそれをどのように考えればよいのかについて、経済常識を確認しながら、オムニバス方式で語ろうとするものである。諸君はこれによって、現代経済事情の全体像をつかむことができるであろうし、また、いわば「講演」に近いので、教員の生の問題意識を知ることでもできよう。

* 事情により、下記の事業計画の順番が変更になる可能性もある。

前期授業計画（カッコ内はキーワード）

- 第1回 国の財政構造分析：『日本型公共政策』の特質解明（国家財政の歳入・歳出構造、予算編成・政策形成過程、国際化と経済政策）
- 第2回 地方の財政構造分析：『日本型地域経済政策』の特質解明（地方財政の歳入・歳出構造、国と地方の財政調整、国の景気対策と地方財政）
- 第3回 お金（貨幣）とは何か？（価値尺度、流通手段）
- 第4回 現代の通貨制度（旧貨幣法、新貨幣法、IMF）
- 第5回 金融経済論ホット・イシュー（金融リテラシー、国際金融事情、求められる金融センス）
- 第6回 北東アジア経済論ホット・イシュー：進路は対岸から一大陸へ舵を取れー（東アジア共同体構想、世界の製造工場・中国）
- 第7回
- 第8回
- 第9回 現代日本経済論を読む（1）（野口悠紀雄『1940年体制』、橋本寿朗『戦後の日本経済』）
- 第10回 現代日本経済論を読む（2）（吉川洋『構造改革と日本経済』、岩田規久男『日本経済を学ぶ』）
- 第11回 雇用をめぐる諸問題（1）労働市場を中心に
- 第12回 雇用をめぐる諸問題（2）成果主義を中心に
- 第13回 歴史からみた資本主義（第一次、第二次産業革命、大量生産・大量消費の時代）
- 第14回 さまざまな資本主義（アメリカ、イギリス、ドイツ、日本の異同）
- 第15回 ヨーロッパ経済

テキスト テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。

参考文献 講義のなかで紹介する。

視聴覚機器の利用

単位認定の方法 レポートによって評価する。

内容的に関連する科目